

人 文 学 部

人類文化学科

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22111	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	横山 輝雄
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 自然環境と人間

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおりて、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 人間は進化の歴史をとおりて独特の生活形態を形成し、とりわけ近代科学技術によって自然環境に対して大きな影響力をもつようになった。しかし、日本では高度成長期以降、一方では物質的な便利さや快適さが増大したが、それと引き換えに自然破壊、環境破壊、景観破壊が進んだ。現在そのことが反省され、歴史的な伝統の再評価も進められている。

本演習では、自然環境と人間、特にコミュニケーション主体としての人間をめぐる問題を、おもに思想的な切り口から考える。現在の環境倫理や景観哲学などをてがかりとして、日本の伝統的な自然観と明治以降欧米からもたらされた自然観との関係、都市風景と田園風景の歴史、公共空間と風景・景観の豊かさの問題、伝統の世代継承と世代間倫理の問題、自然文学（nature writing）と新しいコミュニケーション様式の可能性、コミュニケーション方法と文化的伝統の関連などについて検討する。

【評価方法】 授業への出席と、報告などの参加状況、およびレポートによる。

【テキスト】 桑子敏雄『環境の哲学』（講談社学術文庫）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22112	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	斎藤 衛
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 言語学研究

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおりて、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 本演習の主な目的は、言語関連の卒業研究が、具体的な言語事実の分析に基づき、同時に言語研究の大きな流れの中に位置付けられるものとなるように、必要な基礎知識を身につけることにある。まず、現代言語学の目的と諸分野について概説し、主要な理論的問題を紹介する。その上で、受講者は、(1)文法分析の方法を学び、(2)卒業研究のテーマについて考えていく。(1)については、読書案内に記載されている著書を参考にしつつ、講義を進める。日本語、英語の現象を主な題材とするが、受講者の興味に応じて他の言語も扱う。卒業研究の具体的なトピックとしては、文法分析だけでなく、言語学方法論から方言の音韻分析まで、様々な可能性が考えられる。受講者の希望に合わせて、いくつかの研究領域の基礎文献を紹介し、検討する予定である。また、口頭発表の仕方、論文の書き方についても、できるだけ時間を割きたい。

【評価方法】 主に、練習問題、口頭発表、論文による。

【テキスト】 (参考文献)
中村捷・金子義明・菊池朗『生成文法の基礎』（研究社、1989）
三原健一『生成文法と比較統語論』（くろしお出版、1998）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22113	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	谷口 佳津宏
他の科目との関連	文学部哲学科哲学演習DⅠ・DⅡと共通					他学科履修 不可

【副 題】 哲学研究入門（実践編）——ハイデガー講読

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をととして、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 哲学の学習における原典講読のもつ意義をしかと頭の中にたたきこんでもらうために、まず、最初の数回でそのことについて触れられているいくつかの邦語文献と一緒に読んでいく。また、これによって、訳読の際にも不可欠な日本語能力をいささかなりとも高めておく。その後、実際に原典講読を行なっていくことになる。使用するテキストは、20世紀を代表する哲学者の一人であるマルティン・ハイデガーの著書『存在と時間』であるが、受講者は自らの嗜好にあわせて英語、独語、仏語のうちから一つを選択し、自らの選択した言語に基づいてテキストを読んでいく。原則として、毎回全員に少なくとも一つの文を訳出してもらう予定なので、予習は必須である。なお、辞書は毎回必ず持参すること。

【評価方法】 平常点による。年間を通じて11回以上欠席した者に対しては、単位は与えられない。

【テキスト】 ハイデガー、『存在と時間』の英語版または独語版または仏語版。（テキストはこちらでコピーを用意する）

【そ の 他】 参考までに『存在と時間』の邦訳を挙げておくので予復習に大いに活用していただきたい。

『存在と時間』寺島実仁訳、三笠書房、1939-40年。

『存在と時間』桑本務訳、岩波文庫、1960-63年。

『存在と時間』松尾啓吉訳、勁草書房、1960-66年。

『存在と時間』細谷貞雄、亀井裕、船橋弘訳、理想社、1963-64年。

『有と時』辻村公一訳、河出書房、1967年。

『存在と時間』原佑、渡辺二郎訳、中央公論社、1971年。

『存在と時間』細谷貞雄訳、ちくま学芸文庫、1994年。

『有と時』辻村公一、ハルトムート・ブフナー訳、創文社、1997年。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22114	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	金子 善彦
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 「心」と「物」について考える

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をととして、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 本年度は、次のような問題に取り組みます。
・ どうして「物」の塊にすぎない脳で物事を考えることができるのか？
・ 脳に「心がある」のなら、同じく「物」の塊であるコンピュータについても、そう言えるのではない

か？

・「心がある」とは、そもそも何を意味するのか？

「物」とか「心」といった区別は、私たちの日常にごく自然に浸透しているために、普段はあまり気にとめることはありませんが、このように改めて問いを立ててみると、どこかもどかしく謎めいたものであることに気づかされます。この演習では、テキストの講読とディスカッションを通じて、こうした「心と物」を巡る問題を深く掘り下げたいと思います。テキストは、遥か2000年以上も前に書かれたギリシャ哲学の古典（日本語訳）から、コンピュータ技術の発展に伴う最新のロボット研究にいたるまで、幅広くとりあげ、多角的な視点から問題の核心に迫れるよう工夫します。演習の進め方は、毎回何人かの担当者（グループ）を決め、まずテキストの内容・問題点等について報告してもらい、それをもとにディスカッションを行います。そのことによって、疑問点を洗い出し、問題のありかを明確にするとともに、さらにその問題にどうアプローチすればよいかを共同で追求していきます。

【評価方法】 普段の参加態度（出席、発言など）、小テスト、期末レポートから総合的に評価します。

【テキスト】 野矢茂樹『哲学・航海日誌』、中島義道『哲学の教科書』、ティム・クレイン『心は機械で作れるか』、アリストテレス『魂について』、デカルト『方法序説』、デネット『マインズ・アイ』、その他を予定（変更・追加もあり得る）。必要な部分を抜粋し、適宜コピーを配布しますので、書籍を購入する必要はありません。なお、テキストはすべて日本語（訳）を用いますので、外国語の知識は必要としません。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22115	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	小 谷 凱 宣
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおりて、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものでもある。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 環北太平洋地域において展開した狩猟漁撈民文化の発展と多様性に関する諸問題を先史考古学、文化人類学の立場から考察すること。ヒトの寒冷適応、狩猟漁撈技術の発展、海獣狩猟の歴史的展開、民族芸術の歴史、毛皮交易の先住民文化への影響など、新旧両大陸の極北・亜極北地域に共通する問題の理解を深めるとともに、変化に直面する先住民文化（アイヌ、シベリア少数民族、北米北太平洋沿岸の先住民など）の過去と現在に関わる基本的学術情報の収集・処理法の習得を目標にする。

春学期には、基本的な参考文献を全員で読む。秋学期からは、各人の関心に応じて、適切な研究課題をえらび、その究明に必要な基礎的研究資料などの収集・処理方法を習得し、年度末までに卒業論文のテーマについて見通しを得るよう努力する。また、全員参加を原則とするので、各人が演習時間中に研究テーマ、研究課題について、積極的に論議に参加することを期待している。

【評価方法】 平素の学習に対する意欲、積極性と、各学期末に提出する課題に対するレポート内容とを総合して評価する。

【テキスト】 推薦図書：大林太良（1991）、北方の民族と文化、山川出版社刊

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22116	人類文化演習Ⅰ	必	通年	4	3	KNECHT Peter
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 シャマニズムに関する基礎的研究

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおりて、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類

の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 シャマニズムは人類の最も古い宗教だという人が少なくない。または、シャマニズムは宗教ではなく、世界観だという人もいる。いづれにしても、シャマニズムという現象は決して古風な社会の特徴ではなく、ポストモダンの都市社会において「復活」して、力強く脈動している。今回は、シャマニズムの現象を概略的に把握してから、研究史の移り変りを通して、シャマニズムに関する認識の発展と変化を追究しようとする。

1. 「シャマン」と「シャマニズム」の概略。演習課題の紹介。
2. 何故、今は「シャマニズム」か。人類の古い宗教、新しい宗教。
3. シャマニズムの研究史、そのⅠ：シャマンの「発見」と初期の研究。
4. シャマニズムの研究史、そのⅡ：シャマニズムの古典的研究。
5. シャマニズムの研究史、そのⅢ：シャマニズムとは果たしてあるか。

【評価方法】 シャマニズム研究の代表的な文献（日本語・英語）を読んで、それについて各自に発表してもらう。最後に、民族誌についてレポートを書いてもらう。年間を通して、積極的研究態度を要求する。これをレポートと共に評価の基準にする。

【テキスト】 順次に文献を紹介する予定だが、日本語と英語のものを選ぶ。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
22117	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	坂井 信三
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をととして、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 具体的なテーマは、「大西洋奴隷貿易と西アフリカの社会」とする。
アフリカが今日私たちの世界の一部をなしていることはいまでもないが、その現状は私たちの日常生活からはかけ離れている。干ばつや飢饉、そして国際経済のひずみのなかで、アフリカ諸国は独立以来経済的困難に直面してきたが、その危機的様相は今や国家という機構自体の機能不全にまで進んでいるようにみえる。事態をここまで悪化させた理由をアフリカの人々のせいにするのではなく、「私たちの世界」の問題として理解するには、アフリカがどのような経緯で世界社会に参与し、その中でどのような地位と役割を与えられてきたのかを知ることが不可欠である。
大きな問題点は、いわゆる大西洋奴隷貿易と植民地支配、そして独立以後の開発・援助のあり方にしばられるだろう。来年度はそのうち16世紀から19世紀まで続いた大西洋奴隷貿易に焦点をあて、近代ヨーロッパ世界の成立の、いわば踏み台になったアフリカの歴史を、西アフリカの場合について研究したい。また、アメリカ大陸にわたった黒人奴隷たちの歴史にも関心向けたいと思っている。
春学期は共通のテキストによって基礎知識を身につけ、秋学期はいくつかのグループに分かれて関心のあるテーマに沿って共同研究をし、発表する。

【評価方法】 ゼミへの参加の姿勢と、各学期末レポートによる。

【テキスト】 池本幸三ほか著『近代世界と奴隷制——大西洋システムの中で——』（人文書院）予定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22118	人類文化学演習 I	必	通年	4	3	森 部 一
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 「タイの社会と文化」

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をととして、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習 I は、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 東南アジアを知るための第一歩として、タイに関する入門書であると同時に専門書でもある『暮らしがわかるアジア読本タイ』（小野澤正喜編著1994年、河出書房新社）を用い、タイの社会や文化について幅広く学ぶ。このテキストは、タイ人研究者を含めて30数名の研究者の論考から構成されている。内容は、以下のような項目のもとに編成されている。1. タイ社会“解読”の手引き 2. 日々の暮らし 3. 仏教の伝統 4. 文化のさまざまな顔 5. 多様な民族集団 6. 開発と変化の時代 7. タイと日本

〈演習の進め方〉

毎週、進む範囲を指定し、それを受講者全員で輪読し、理解しにくい部分や問題点を明らかにし、さらには要点を押さえる。勿論、あるテーマに関して手軽に参照できるおもしろい関連論文（タイに関するものであれ、タイの周辺地域に関するものであれ）があれば、寄り道してそれを取り上げて読んでいくといったやり方をしたい。

【評価方法】 出席、質疑応答、定期試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】 『暮らしがわかるアジア読本タイ』（小野澤正喜編著1994年）河出書房新社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22119	人類文化学演習 I	必	通年	4	3	青 山 幹 哉
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 史料で読む日本中世社会

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をととして、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習 I は、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】

1. 中世史科学（古記録）概説
2. 記録文に見える語句等の調べ方について
3. 『吾妻鏡』の講読
4. 『玉葉』『中務内侍日記』等の講読
5. 古記録と他の史料との対照

【評価方法】 口頭発表・他者の発表に対する発言・研究レポートにより評価

【テキスト】 『吾妻鏡』等、テキストとするものについては配布する。

なお、参考文献は以下のとおり。

小山田和夫『入門 史料を読む—古代・中世—』吉川弘文館、1997年

飯倉晴武『日本小百科 古記録』東京堂出版、1998年

斎木一馬編著『古記録学概論』吉川弘文館、1990年

斎木一馬『古記録の研究』上（著作集1）吉川弘文館、1989年
 松蘭 齊『日記の家』吉川弘文館、1997年
 八代國治『吾妻鏡の研究』吉川弘文館、1913年
 五味文彦『吾妻鏡の方法』吉川弘文館、1990年（増補版2000年）
 角田文衛『平家後抄』朝日新聞社、1981年（講談社学術文庫版あり）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22120	人類文化学演習 I	必	通年	4	3	伊 藤 秋 男
他の科目との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 ユーラシアの考古学

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおり、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習 I は、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 1) 時代と地域はとくに限定しないが、中国・日本・朝鮮半島の古墳文化を中心に勉強する。
 2) 受講生の課題に対する興味がどこにあるか、を開講時に相談する。
 3) 課題設定に対する助言を通して、発表題目を決める。
 4) 課題について2～3週間の時間をかけて、図書館・博物館・現地調査などで調べる。
 5) 発表資料（レジュメ・写真・図面など）を作成して、自分が調べた内容を口答で発表する。
 6) 質疑応答ののち、発表成果の評価をうけて、今後の研究の指針とする。
 7) 発表した内容をレポートにまとめて提出する。
 8) 受講生の人数にもよるが、少なくとも年間3回は発表を義務づける。

【評価方法】 発表資料の作成方法、発表内容と態度、レポート、参画意欲度などから総合的に評価する。

【テキスト】 特にテキストは指定しないが、新聞の考古学関係の記事には、できるだけ目を通すようにする。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22121	人類文化学演習 I	必	通年	4	3	早 川 正 一
他の科目との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 「文化史」として人類文化を模索するゼミナール

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおり、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習 I は、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 文化人類学や考古学とは密着しているが、歴史性を主軸にして、さまざまな文化事象を文化史の観点から研究し、模索することを基盤とする。したがって、生きている民族社会、遺跡や遺物でしか見るることのできない過去に対して遠慮なく歴史の目を向けてゆく。

受講生は、関連する専門図書や図録・写真、場合によってはビデオや映画を検索することから始め、各人のテーマを焦りこんでゆく。

そして、選定したテーマの中に、文化史のみかたから何が研究できるのか、何が問題として相応しいのか、できれば従来になかった独自の課題の開拓に挑む若々しさと柔軟さを期待する。

各人は、自分が選んだテーマの魅力や妥当性をゼミで発表し、いろいろな意見を聞いて研究のための基

盤にしてゆく。そして、検索した文献の類だけで十分でなければ、博物館や美術館の資料や、現地調査とか発掘された資料を使って、自己のテーマを展開させたい。なにも完成されたものを担当者として要求しない。意欲的に取り組んでほしい。

【評価方法】 各人が発表した内容、ゼミナールで配布したプリント資料、ゼミナールでの参加態度などを評価の基準とする。不必要・無責任な欠席をしないでほしい。欠席も評価の対象とする。

【テキスト】 上記のような計画であるから、使用しない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22122	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	大塚 達朗
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 考古遺物研究による日本列島人類進化史——「縄紋土器の謎を探る」

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおりて、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】

1. 南山大学人類学博物館で当館が所蔵する旧石器時代・縄紋時代各種石器資料や縄紋土器資料（全国の大学博物館所蔵資料中、群を抜いて豊富な資料）を実際に手にとって観察し、＜個体識別法＞を体得することから始める（その際に、剥片剥離技法や縄紋施紋技法や土器製作技法も学ぶ）。
2. 考古学の最も基本的な概念である＜型式＞についての学習に移る。具体的には、旧石器時代・縄紋時代各種石器および縄紋土器の型式分類・記載のシステムを学習する。
3. 学習した型式分類・記載システムを念頭において、新たに与えられた資料を観察し、型式分類を試みる（その際には、拓本・実測・写真という作業も行う）。
4. 1～3の課程を修得した後に（更新世から完新世への移行時の環境変化や縄紋海進海退時の環境変化を考古学的にどのように把握できるかを学習しながら）、縄紋土器の型式分類からどのような社会的コンテクスト＜人類進化史＞が解説できるのかを受講者それぞれが模索することを通して、考古学の醍醐味に触れさせる。

【評価方法】 出席状況や演習中の態度から判断する。

【テキスト】 甲野勇著『縄文土器の話』（学生社、1976年）、鈴木公雄著『考古学入門』（東京大学出版会、1988年）、大塚達朗著『縄紋土器研究の新展開』（同成社、2000年）

【そ の 他】 直接、考古遺物を取り扱うので、くれぐれも壊さないように注意すること。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22123	人類文化学演習Ⅰ	必	通年	4	3	西江 清高
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 数百万年におよぶ進化の歴史をとおりて、人類は他の地球生命には見られない独特の生活形態を形成し、発展させてきた。それが今日われわれを生かしている文化である。人類文化学演習Ⅰは、そのような人類の生き方としての文化を、歴史、生活技術、思想、社会、宗教など様々な切り口から研究し、人類の自己理解を深めることを目的とする。また、人類の文化はたんに過去の産物ではなく、歴史的な形成物としてわれわれ自身が次の世代に受け継がせていくべきものである。したがって人類文化の今日的課題と次世代の子どもたちに継承させる将来像を考えさせ、討論させることもこの演習の課題のひとつとなる。

【講義計画】 中国大陸とその近隣諸地域の考古学・古代史研究を共通のテーマとして演習をすすめる。主として黄

河・長江流域と東南アジア地域などにおける初期農耕社会の発展と、初期国家形成へのプロセスを理解しながら、諸地域の研究状況を理解し、そこから各自の研究テーマを探しだすことを目標としたい。学期のはじめに、演習の柱となる中国考古学の研究に必要な基礎知識を解説し、そのうえで、日本語、中国語、英語などの文献を、分担して読み進めていく。この講読を進めるなかで、参加者は中国考古学の研究史的背景を理解し、同時に考古学研究のための資料収集の方法や、考古学的分析の手順について実践的に学んでいく。演習の最終段階では、各自が選んだ個別的テーマにしたがって研究発表をおこない、それをレポートの形にまとめる。

【評価方法】 年度末のレポートと、日頃の発表状況から評価する。

【テキスト】 講読する文献は、参加者と相談して決定する。参考書 小澤正人・谷豊信・西江清高『中国の考古学』（同成社、1999）、坂井隆・西村正雄・新田栄治『東南アジアの考古学』（同成社、1999）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22401	論理学	選必	春学期	2	2～4	服 部 裕 幸
他の科目との関連	(旧カリ科目の) 論理学Ⅱの履修には論理学又は (旧カリ科目の) 論理学Ⅰの履修が前提とされる。					他学科履修 可

【副 題】 真理関数理論とその限界

【講義内容】 真理関数理論（命題論理）の初歩的部分を概観し、最後に量化理論の話しを少しする。具体的には、自然言語の文の記号化のしかた、真理値分析、「真理の木」の方法による正しい推論であるか否かの判定法、真理関数理論の限界、などを概観し、論理の研究法を身につけさせる。

【講義計画】 第1回：論理学＝（文法＋化学＋数学）÷3！？－論理学の目的と方法－
 第2回：言語の模型を作ろう！（パート1）－真理関数的言語－
 第3回：言語の模型を作ろう！（パート2）
 第4回：真理関数的言語を用いての記号化
 第5回：真理表と真理値分析
 第6回：馬鹿馬鹿しいほど当たり前のことと正しい推論
 第7回：推論が正しいか否かを効率よく判定するには－真理の木の方法（パート1）－
 第8回：真理の木の方法（パート2）
 第9回：もっと精巧な模型が欲しい！！－真理関数理論の限界－
 第10回：量化理論言語（パート1）
 第11回：量化理論言語（パート2）
 第12回：「日本人がみな英語が苦手であるわけではない」？－量化理論言語による記号化－

予習、復習をしないと授業についていくのが困難であるのでそのつもりでいること。随時小テストを行なう。

【評価方法】 成績は出席状況、レポート、小テスト、試験の成績、等を参考につける。

【テキスト】 ジェフリー著『形式論理学』（産業図書）
 なお、戸田山和久著『論理学をつくる』（名古屋大学出版会）を参考書として推薦する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22406	言語論	選必	春学期	2	2～4	斎 藤 衛
他の科目との関連	「人文学基礎論（言語学入門）」をすでに履修していること。					他学科履修 可

【講義内容】 文法論、音韻論における伝統的な問題をとりあげ、詳しく議論する。Joseph Greenbergの語順の類型論に関する一般化、Edward Sapirの音素の心理的実在性に関する議論、Noam Chomskyの生得性仮説を解説し、言語研究のありかたについて考えていく。

【講義計画】 現代言語学は、言語研究を通して、人間の言語知識を対象とした科学的理論を確立することをめざす。

しかし、言語研究のありかたについては、様々な立場があり、現在も盛んに論争が行なわれている。本年度は、「講義内容」に挙げられているトピックを題材として、言語研究は何を対象とすべきか、言語に関する科学的理論は可能か、といった根本的な問題について考える予定である。

【評価方法】 試験

【テキスト】 講義の初日に紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22411	科学文化論	選必	秋学期	2	2～4	横 山 輝 雄
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 自然認識と文化の問題——人間と動植物のかかわりを中心に——

【講義内容】 近代科学は、人間の思想や文化に大きな影響を与えてきた。物理科学にはじまった近代科学が、伝統的な自然観・世界観にどのような衝撃を与えたか。人類学をはじめとする人間学・人間科学あるいは歴史学・言語学などの人文学の領域において科学の方法はどこまで有効なのか、「民族分類学」(folk taxonomy)のもっている近代科学と異質な認識が環境問題との関連で再評価されていることなどをとりあげて、科学と文化の関係を明らかにする。

【講義計画】

1. 近代科学の自然観
2. 博物学と分類学
3. 人間科学・歴史科学の独自性の問題
4. 民族分類学・俗信科学
5. 民間心理学
6. 博物館、博覧会と展示
7. 万国博覧会と科学技術の時代
8. 動植物の「擬人的」解釈
9. 環境倫理と人間非中心主義
10. メディアとしての動物園
11. 日本の動物園の歴史
12. 都市情報装置としての動物園

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22416	社会人類学	選必	春学期	2	2～4	坂 井 信 三
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 世界の諸民族の社会構造や制度の比較研究をととして、人類社会の編成原理を探ろうとする社会人類学は、現代文化人類学の主要分野のひとつをなしている。講義では1920年代以降、現在までの主な学説の発展を追いながら、社会人類学の基本的な研究課題、問題設定、方法論などを理解させる。

【講義計画】

1. 社会の概念
社会人類学の歴史
社会を見る視点の変化
2. 人類の社会
家族と親族
ジェンダー
儀礼
3. 政治的統合と経済システム
国家の形成
近代国家の成立

現代世界の構造

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 特に指定しない

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22421	宗教人類学	選必	春学期	2	2～4	KNECHT Peter
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 宗教人類学は、宗教・信仰を文化現象として研究する学問分野である。本講義では個別文化における宗教体系の独自性に注目し、宗教的な行為や慣習の示す諸形態のタイプとその多様性を理解することを目的として、世界各地の社会からの民族誌的事例を紹介する。

【講義計画】

1. 宗教と宗教人類学：「文化現象」としての宗教。
2. 象徴の性質とその多様な機能。
3. 宗教の代表的行為：儀礼、呪術
4. 宗教的世界観：中心・辺境・権威
5. 宗教の職能者たちとその力：プリースト・シャーマン・憑物
6. 人生と社会における宗教：先祖の役割・人生の節目と死

【評価方法】 学期末の筆記試験によるが、参照物件の持ち込みを認めない。

【テキスト】 別に定めないが、講義の進行に従って関連文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22426	民族誌学	選必	春学期	2	2～4	吉 田 竹 也
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 20世紀の文化人類学は、研究者自身が長期にわたって現地調査をおこない、その成果を民族誌というかたちにまとめ提示するという独特の学問的スタイルを確立した。講義では、代表的な民族誌を紹介しつつ、民族誌という方法の意義や特徴について検討するとともに、民族誌をめぐる近年のあらたな研究動向についても触れ、人文社会科学における民族誌学の位置づけについて考察する。

【講義計画】 まず、「民族誌」が何であるのかについての概要を説明する。次に民族誌研究の成立から発展、そして近年における根本的な批判までにいたる民族誌論の流れを説明する。そして講義の後半では、民族誌の具体例（著書もしくは論文）を取り上げて、それを読み込みながら、民族誌的研究について考察しようとする。なおこの講義は民族誌について知るトレーニングの場という性格をもっているため、履修者には数冊の民族誌を読んでもらい、適宜レポートを提出してもらう。半分は講義、半分は演習的な授業だと理解してほしい。

【評価方法】 出欠状況、受講態度、レポート、期末試験などを総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
22431	日本考古学	選必	春学期	2	2～4	伊藤 秋男
他の科目との関連						他学科履修 可

【副 題】 東アジアのなかの日本考古学

【講義内容】 東アジアのなかの日本という視点から、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代における器具の製作技術、食料の生産技術とその組織、衣食住の物質文化、宗教思想と死の芸術、東アジアにおける文化交流などの問題について論じる。

【講義計画】 個々の知識を修得することは、それほど大切なことではない。できるだけ毎回、プリントやスライドなどの映像を通して、たくさんの考古資料を提供するから、これらの資料を材料にして、受講者の皆さん自らが、主体的に考えていただく時間にしたい。

【評価方法】 筆記試験と出席回数などから総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
22436	東洋考古学	選必	春学期	2	2～4	重松 和男
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 東アジアを中心にした考古学研究・調査の歴史と現状を述べた後、中国の考古学を時代を追って概述する。内容は、時代ごとの主要な成果を中心に、取り上げる予定である。韓半島・ヴェトナム、インド・パキスタンを中心に東南アジア・中央アジアの考古学にも若干触れる。出来る限り、視聴覚教材を利用する。

【評価方法】 試験

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
22441	文化史	選必	春学期	2	2～4	早川 正一
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 今日の私達の日常生活は、まさに文化活動が主要であり、多岐にわたって複雑きわまりない。見方によっては、人類として自らが開発し、普及させてきたさまざまな文化に振り回され、文化と無縁では生活ができない現実に至っている。

文化の多様性を考察するため、この講義は、文化の理解の原点にたちかえて、人類史における文化の歴史性に焦点を合わせることが主眼である。

【講義計画】 この講義は、下記の単元のもとに展開してゆく計画である。

(Ⅰ) 前提として「文化」とは何か。これはあらゆる分野から常に問い直される課題であるが、人類学では、どのように文化をとらえ、考えてきたか。

(Ⅱ) 「人類学的時間」とか「人類学的歴史」という視点とその方法。

(Ⅲ) 考古学は「文化」と「歴史」をどのように考えてきたか。

(Ⅳ) 民族学は「人類史」をどのようにとらえようとしたか。

【評価方法】 毎時間、出欠席カードを記入させ、出欠席の状況を成績に反映させる。期末試験のほかに、臨時の小テストを実施し、総合評価をする。欠席過多は不合格とする。

【テキスト】 未定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22601	言語と知識（文法と意味）	選	春学期	2	2～4	青 柳 宏
他の科目との関連	「人文学基礎論（言語学入門）」、「言語論」などの科目で、生成文法の統語論の基礎を既修のこと。					他学科履修可

【副 題】 文法と意味

【講義内容】 言語における構造と意味の関係を考える。生成文法の理論的装置を用いて、日本語や英語のさまざまな構造の文を詳しく吟味しながら、言語における階層性と語順の関係、表層構造(S-structure)と論理形式(Logical Form)の存在意義などを検討する。

【講義計画】 本年度はつぎのようなトピックを順次取り上げる予定である。

- (1) 補文構造
- (2) 移動現象
- (3) 束縛照応
- (4) 数量詞と作用域

【評価方法】 出席、授業中に出される課題、期末試験の結果を総合的に加味して評価する。

【テキスト】 適宜プリントを配付する予定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22606	言語と知識（言語類型論と統語理論）	選	秋学期	2	2～4	青 柳 宏
他の科目との関連	「人文学基礎論（言語学入門）」、「言語論」などの科目で、生成文法の統語論の基礎を既修のこと。					他学科履修可

【副 題】 普遍文法と言語類型論

【講義内容】 ヒトという種が生得的知識として普遍文法（Universal Grammar）を有するという生成文法の仮説をもとに言語類型論を考える。世界のさまざまな言語には、基本語順を初めとして、文法関係の表し方、主語と動詞の一致の有無、格表示の方法、疑問文のつくり方、複合動詞の結合のし方などに差異がみられるが、これらをどうすれば統一的かつ原理的に説明できるかを考える。

【講義計画】 まず、講義の前半では、普段あまりなじみのない言語（過去に取り扱った言語はTamil, Tohono O'odham, Diyrbal, Ainuなど）のデータを実際に分析して、言語分析の基礎を身につける。そして、後半では、Greenberg (1966), Roberts (1997) などの言語類型論の文献を渉猟し、前半で分析した言語にみられる事実がどう説明されるかを検討する。

【評価方法】 出席、授業中に出される課題、期末試験の結果を総合的に加味して評価する。

【テキスト】 適宜プリントを配付する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22611	言語と知識（言語の哲学）	選	春学期	2	2～4	服 部 裕 幸
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人が言語を話すときには規則にしたがっている。しかし、規則にしたがうとはどういうことなのか、どのような規則にしたがっているのか。また、言語は単なるらくがきなどとは異なり、何かを指示したり意味する（のに使われる）。しかし、ある記号が何かを指示するとか意味するとはいかなることなのだろうか。このような問題を検討することによって言語知の本性を考える。

【講義計画】 次のテーマについて順次考察していく予定である。

- 1 言語哲学とは何か？言語学と何が違うのか？
- 2 意義と意味の区別について
「独身者」と「結婚していない人」は同じ意味である。したがって、「独身者＝結婚していない人」と「独身者＝独身者」は同じ意味である！何か変なところありますか？
- 3 ラッセルの記述の理論
- 4 言語学者による言語能力の研究
言葉が話せるというのはどういうことなのか？
- 5 後期ウィットゲンシュタインの言語観
言語についての体系的な探究に成算はあるのだろうか？。

【評価方法】 学期末に実施するテストによって評価する。

【テキスト】 特定の教科書は使用しないが、次の文献を参考書として推薦する。
飯田隆著『言語哲学大全』勁草書房
D. クーパー、『ことばの探究』紀伊国屋書店

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22616	言語と知識（統語論）	選	秋学期	2	2～4	斎 藤 衛
他の科目との関連	人文学部科目「人文学基礎論（言語学入門）」、または、外国語学部科目「言語研究の基礎」をすでに履修していること。					他学科履修可

【講義内容】 現代言語学は、言語の科学的研究を通して、人間の「心」を解明することを目的とする。本講義では、チョムスキーの統率・束縛理論（1981）に至る文法理論の発展を概観し、この研究プロジェクトの意義を検討する。また、日本語研究、日英語比較研究が、このプロジェクトにいかにか寄与しうるかについても考える。

【講義計画】

1. 文法理論がめざすもの：普遍的人間文法の解明
2. 規則のシステムとしての言語：英語文法を中心として
3. 理論的問題の設定：規則の統合と再編成
4. 表示と原理による普遍文法
5. パラメーターによる個別言語の説明
6. 日本語の位置付けと日本語研究の役割

【評価方法】 練習問題とレポート

【テキスト】 参考文献：中村 捷、金子義明、菊池 朗著『生成文法の基礎』、研究社出版、1989.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22621	言語と知識（コミュニケーションと言語）	選	秋学期	2	2～4	横 山 輝 雄
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 コミュニケーション論の諸問題

【講義内容】 言語はコミュニケーションで重要な役割をはたしているが、同時に非言語的なコミュニケーションと相補的な関係にある。対人関係、及び社会における人間のコミュニケーションの特徴を、動物の「言語」や「コミュニケーション」との対比、論理的言説と修辭的言説の関係、新しい知識生産とその社会的受容の問題などを論ずることによって明らかにする。

【講義計画】

1. 言語の獲得と発達過程
2. 言語的コミュニケーションと思考様式
3. コミュニケーションと認知科学
4. コミュニケーションと哲学
5. 動物のコミュニケーション
6. ノンバーバル・コミュニケーションの機能と理解
7. メッセージの分析
8. 広告のコミュニケーション
9. うわさ話とメディアの役割
10. コミュニケーションと説得
11. 異文化コミュニケーション

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22626	人間と文化（人間理解の方法論）	選	春学期	2	2～4	小 林 傳 司
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 人間理解の方法論

【講義内容】 近年の進化論的アプローチによる人間観と伝統的な哲学や文化人類学等が提示してきた人間観の収斂と相違を解説することを通じて、人類文化に対する様々な研究様式を概観する。また、異文化理解の可能性をめぐる哲学的難問を提示し、それが歴史的過去や他者の理解においても同様に生じる問題であることを理解させることを通じて、文化研究の根底にある方法論的前提を意識化させる。

【講義計画】

1. 序論
2. 自然科学的人間観の系譜
 - ・ 人間機械論
 - ・ 進化論的人間観 1：スペンサー、ハクスリー、ダーウィン
 - ・ 進化論的人間観 2：社会生物学、進化心理学
 - ・ 遺伝と環境
3. 人類学的人間観の系譜
 - ・ 「文化」概念の意味
 - ・ 人類学的認識と相対主義
4. 異文化理解の諸問題
5. まとめ

【評価方法】 筆答による定期試験

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22631	人間と文化（人間文化の諸問題）	選	秋学期	2	2～4	谷口 佳津宏
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 西洋倫理学史第2部

【講義内容】 人間と文化に関わるいくつかの問題を、人間文化による人間の定義、神話と宗教、言語、芸術、歴史、科学の六つの項目を中心に考察する。

【講義計画】 上記の内容をふまえ、具体的には、以下の思想家の人間についての考えを解説する。

1. マキヤヴェッリ
2. ホッブス
3. デカルト
4. スピノザ
5. ヒューム
6. ベンサム
7. ミル

【評価方法】 非論述式、持ち込み不可による期末試験で評価する。毎回出欠をとるが、5回までの欠席は成績には何ら関係しない。6回以上の欠席は受験資格を失う。

【テキスト】 原典資料抜粋集をテキストとして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22636	人間と文化（哲学と心の問題）	選	夏期後半	2	2～4	金子 善彦
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 哲学と心の問題

【講義内容】 私達は、自分に心があると信じて疑わないし、自分の気持ちは自分が一番よくわかっていると確信している。しかし、その場合の心とは何を意味するのだろうか。それは他人や、異文化の人々にも共有されるようなものなのだろうか。それとも、自分だけがひそかに持つようなものなのだろうか。また、そもそも心といったようなものは存在するのだろうか。本講義では、このような観点から、人間の心について哲学的に考察することにより、人間の理解にアプローチする。

【講義計画】 この講義では、「人間の心」の特徴を明らかにするために、次の問題を考えていく。

- (1) 「心がある」とはどういうことか——その基本的な特徴
- (2) 心は思考する——「太郎はケチだ」という思いはどう形成されるのか
- (3) 心は行動を引き起こす——いかにして「ケーキを食べる」のか
- (4) 心は直観する——いちいち考えなくても「殺人は悪い」とわかるのはどうしてか
- (5) 心は意識する——トマトの「赤」の生きいきとした感じは何に由来するのか
- (6) 熟練の技——マニュアルに従わなくても車が運転できるようになるのはなぜか
- (7) 心の働きと脳の働きはどう関係するのか——心は「機械の中の幽霊」か？
- (8) 機械が心をもつ可能性——アンドロイドは夢を見るか
- (9) 人間が不測の事態にも対処できるのはなぜか——フレーム問題
- (10) 心は「どこ」にあるのか——自己の内面と外面
- (11) 心は本当に「ある」のか

【評価方法】 つね日頃どれだけ授業に積極的に参加したかを重視する。具体的には、教室での積極的な発言、質問、レポート（小テスト）など。当然、出席してもらうことが大前提。
学期末には筆記試験を行ない、平常点とあわせて総合的に評価する。

【テキスト】 特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22641	人間と文化（認識の枠組み）	選	秋学期	2	2～4	戸田山 和久
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 理詰めでどこまで行けるか：現代形而上学の冒険

【講義内容】 人間が世界を認識しその中で生きていく際の最も基本的な枠組みを主題化しその整合性を点検し、統合していくことは非常に重要である。この講義の目標は、かつて形而上学と呼ばれていたような営みを現代科学との関連の中で再活性化させることである。具体的には、時間と空間という枠組みが科学との関係の中でどのように変容しつつあるかを論じる。その際、例えば、右と左の違いはどこにあるのか、時間旅行は可能か、といった問題を明確化しつつ問いすすめるという形式で講義を展開する。副次的には、原因と結果、説明、情報と知識、合理的意思決定、自由といった概念が検討されることになるだろう。

【講義計画】 今年度は、形而上学の大問題である「空間」の問題をとりあげてみよう。
なるべく具体的なところから話をするために、まずは「鏡が上下ではなく左右を反転させるのはなぜなのか」についてトコトン考えてみる。
次に、「遠く離れて通信でしか話をできない宇宙人にどっちが右でどっちが左かを教えることはできるか」という問題に取り組む。
さらに、「右手の形と左手の形の違いはどこがどう違っているのか？」という問題に挑む。
これらの問題は、実は空間は我々の認識と独立に存在しているのか、それとも…、という問題につながっているのだ。そこで最後に、ニュートンやらライブニッツやらアインシュタインなんかに言及してこの最後の大問題に答える。

【評価方法】 授業の途中で何度か小レポートを書いてもらう。それと期末試験の成績をあわせて評価する。比重は50%：50%。

【テキスト】 テキストは使用しない。参考図書は洋書・和書たくさんあるので、講義の際にブックガイドを配る。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22646	人間と文化（知識と社会）	選	春学期	2	2～4	大沢 秀介
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 伝統的な認識論においては知識は個々の人間がもつものと考えられているが、知識というものはその本性上、社会的なものであり、それゆえ、たとえば知識を一人の人間の脳やコンピュータの中だけで見出すなどという試みは根本的に誤っている、ということや、知識にとってとかく否定的にとらえられがちな権威システムが、むしろ知識にとって決定的な役割を演じている、ということを論ずる。

【講義計画】

1. 知識について問うということ
2. 知識と知識でないもの
3. 知識論の歴史 1
4. 知識論の歴史 2
5. 意識から言語へ
6. 論理と理論
7. 知識と科学
8. 知識の担い手
9. 個人と社会
10. 知識の存在の仕方
11. 知識を進化させるもの
12. 知識と道徳

【評価方法】 論述式試験

【テキスト】 プリントを用意する

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22651	地域の文化と歴史（北太平洋）	選	秋学期	2	2～4	小 谷 凱 宣
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 環北太平洋の民族と文化

【講義内容】 極北・亜極北地帯に属する北太平洋地域の先住民諸文化は、狩猟漁撈活動に特色づけられる。この観点から、地域の先住民文化の特色を概観するとともに、後期旧石器文化の発展とヒトの寒冷地への居住空間の拡大、ベーリング海地域の環境変化とヒトの新大陸への移動、沖積世における先住民文化の発展、農耕・牧畜経済の受容など、この地域に特有の諸問題を紹介、考察する。さらに、西欧近代以降の西ヨーロッパ人、ロシア人の進出の影響、とくに毛皮交易による先住民文化の変容の問題も考察する。

【講義計画】 上記の講義内容に沿って、次のトピックを説明する。
 1) 北太平洋の海洋生態学的特徴
 2) 北太平洋に隣接する新旧両大陸北部の自然環境の特徴を、ヒトの居住空間という視点から説明
 3) ヒトの新大陸への移動・進出の文化的背景
 4) 環北太平洋地域の先住民文化の発展とその特徴
 5) 環北太平洋地域から見た日本列島における文化発展の特徴
 6) 毛皮交易；先住民文化の変容と世界システム

【評価方法】 関心をもつテーマを選択して、各人にレポートを提出してもらう。学期末の成績評価は、筆記試験とレポート内容とを総合しておこなう予定。

【テキスト】 テキストと参考文献リストは、秋学期の最初の時間に手渡す。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22656	地域の文化と歴史（東南アジア大陸部）	選	秋学期	2	2～4	森 部 一
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 「緩やかに組織された社会構造」と「銀河系的政体論（もしくはマンダラ国家論、劇場国家論）」

【講義内容】 東南アジアの地域に共通していると考えられる特徴を、「緩やかに組織された社会構造」と「銀河系的政体論（もしくはマンダラ国家論、劇場国家論）」の二つのテーマを取り上げて論じることによって、この地域に対する理解の深化を目指す。前者のテーマを論じる際には日本との比較にも留意する。なお、時間の関係上、いずれのテーマもタイ社会を中心に取り上げる予定。

【講義計画】 1. “緩やかに組織された社会構造”をめぐる論争
 2. タイ人の行動様式と仏教の倫理
 3. 東南アジアの伝統的国家像——Tambiahのマンダラ国家論（＝銀河系的政体論）を中心として

【評価方法】 定期試験・出席などから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22661	地域の文化と歴史（東アジア）	選	春学期	2	2～4	大 塚 達 朗
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 東アジア初期先史土器文化論

【講義内容】 日本列島内の先史文化要素は、時として北上したり南下したりすることで一般化する。その場合、九州と北海道とが日本列島内の文化動向の起点の場となる。その九州や北海道は、他方で、列島外の東アジアの特定先史文化との関係の方が強いので、日本列島の枠を越えた大きなシステムの存立を念頭におかねばならない。この場合、日本海を大きな交流の場と見ることを意味する。これを環日本海先史世界と呼び、本講義では、この世界によって結びつけられた東アジア先史文化・新石器文化どうしの関係を論じる。

【講義計画】 下記のテーマにそって講義を進める。

1. 東アジア後期旧石器時代の狩猟採集民の拡散
2. 晩氷期から完新世初頭の環境変動と狩猟採集民の適応
3. 環日本海の交流圏の認定の必要性和その要件
4. 東アジア諸地域の初期先史土器文化の特質
5. 東アジア諸先史土器文化の間地域性と環日本海先史世界

【評価方法】 期間中の小レポートと期末試験で成績を評価する。なお、出欠はきびしく取り、成績に反映させる。

【テキスト】 参考資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22666	地域の文化と歴史（南アジア）	選	春学期	2	2～4	杉本 星子
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 グローバル化のなかの南アジア

【講義内容】 南アジア地域は、冷戦後の国際関係の変化やグローバルな経済変動のもとで大きく変貌しようとしている。講義では、カースト問題やヒンドゥー教とイスラム教のコミューナルな対立など南アジア社会のかかえる諸問題の歴史的背景について、基本的な研究論文の講読をとおして理解し、さらに新聞・雑誌の記事や政治団体のホームページなどから得られる最新情報を分析してそれについて討論するなかで、今日の南アジア地域に関する洞察を深める。

【講義計画】 講義は以下のような構成をとる。各テーマについて約3回の講義を予定している。

第一部 南アジア地域概説

第二部 南アジアの宗教問題
映画『ボンベイ』を題材に、アヨーディア問題、ヒンドゥー至上主義の擡頭、キリスト教徒襲撃事件などについて考察する。

第三部 テロリズムと暴力
映画『ディル・セ』を題材に、テロリズムやスリランカ問題など、南アジアにおけるさまざまな形の暴力の発生について議論する。

第四部 グローバル化と海外在住インド人
映画『ジーンズ』を題材として、グローバル化の進行に伴う海外在住インド人の増加と世界各地のインド移民間の新たなネットワークの再編成について考える。

まとめ

【評価方法】 レポート、定期試験などによるが、出欠席も重視する。

【テキスト】 講義中に指示する。

【そ の 他】 OHP、ビデオなど、視覚教材を用いて講義をおこなう。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22671	地域の文化と歴史（東南アジア島嶼部）	選	秋学期	2	2～4	吉田 竹也
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 インドネシアおよびその周辺地域には多数の民族集団が存在している。講義では、とくに資料の豊かなバリを中心として、東南アジア島嶼部の特定地域の社会・文化・歴史について検討することを通して、文化人類学的な地域研究のひとつの具体的な姿を明確にするとともに、個別的地域研究から得られる一般論的問題について考察しようとする。

【講義計画】 バリに関する近年の歴史人類学的諸研究をもちいて、植民地時代以降のバリ宗教文化の系譜学を試みる。既存の人類学的研究に見られる同時代のバリ宗教文化研究について論じ、19世紀以降のバリの歴史を彩るいくつかのトピックについて説明する、という作業を往復する予定である。

【評価方法】 出欠状況、受講態度、レポート、期末試験などを総合的に判断して評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22676	地域の文化と歴史（アフリカ）	選	秋学期	2	2～4	坂井 信三
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 アフリカ大陸は人類の発生した大陸であるが、長い歴史のなかで独自の文化、文明を創造してきた。講義ではアフリカ大陸全体にわたって、生態的條件の歴史的变化と生業技術の展開をあとづけたのち、話題を西アフリカにしばってその地域独自の社会、文化の特性を論じる。

【講義計画】

1. アフリカ大陸概観
2. アフリカ史の1万年
アフリカの気候変動と諸民族の分化
牧畜・農耕・冶金術の発生・伝播
国家の形成と長距離交易
イスラーム世界とのかかわり
大西洋奴隷貿易の影響
植民地化と独立
3. ニジェール川内陸デルタの諸民族
民族の分化と共生
経済的交換のシステム
都市の構造
異質なものの共存の流儀

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 特に指定しない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22681	地域の文化と歴史（オリエント）	選	秋学期	2	2～4	森際 眞知子
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 古代エジプトの歴史と考古学について、著名な遺跡の調査・研究史、ヒエログリフなどの文献学的方法などの「エジプト学」の基本的な知識と研究法を説明し、古代エジプトの歴史を時代を追って紹介する。

- 【講義計画】 (1) 学史を中心に、古代エジプト文明の歴史や文化が解明されていった経過を講義する。
(2) 第18王朝を中心に通史的な授業を行う。

いずれもビデオ、コピーなどを用い、考古学的な研究と文献からの古代史の研究の両面について考える。

【評価方法】 筆記試験（出席重視）

【テキスト】 適宜、参考文献を紹介

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22686	地域の文化と歴史（ヨーロッパ）	選	春学期	2	2～4	周 藤 芳 幸
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 ギリシア考古学の諸問題

【講義内容】 エーゲ海に浮かぶ無数の島々とそれを取りまく世界は、隣接するアナトリアやエジプトから影響を受けながらも、早くから個性的な文化を育み、それはやがて古典ギリシア文明として開花することになる。この講義では、ビデオやスライドを通してエーゲ海の景観や遺跡を紹介しながら、ギリシア文明の成立過程にかかわる紀元前8世紀までのさまざまな考古学的問題について、最新の知見を踏まえながら論じていく。

- 【講義計画】 (1) エーゲ海の景観と環境
(2) ギリシア考古学の展開
(3) 紀元前1200年の破局と東地中海世界
(4) ギリシア都市の成立過程
(5) 聖域と神殿建築の発展
(6) オリュンピアと古代運動競技会
(7) デルフィとアポロンの神託
(8) イオニア人の聖域デロス島
(9) アテネのアゴラと市民生活
(10) ケラメイコスと死生観
(11) エピダウロスとアスクレピオス信仰
(12) 領域部の考古学

【評価方法】 講義への出席状況および定期試験の結果による。

【テキスト】 講義中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22691	地域の文化と歴史（南アメリカ）	選	夏期前半	2	2～4	加 藤 隆 浩
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 南アメリカの文化人類学

【講義内容】 新大陸の雄大な自然のなかで発達したマヤ・アステカ・インカなどは、独自の高度文明を展開させて、多くの謎を残したまま消え去った。この講義では最新の情報を駆使し、ラテンアメリカの古代文明に関して現在までに何が解明され、また何が解明されていないのかを明らかにして、闇に包まれた古代文明の神秘のベールを剥がしていく。

- 【講義計画】 この講義で取り扱うテーマは以下の通り。
国家起源論
エコロジーとエスノ・エコロジー
喰人論
魔女の発生

歴史観と集合的記憶
 エスノヒストリーと世界システム
 動物とシンボリズム
 図像の読み方
 ドラッグ文化
 レヴィ・ストロースと神話
 限定された善きもののイメージ
 首狩りと身体彩色

【評価方法】 レポートと学期末試験

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22696	物質文化論	選	秋学期	2	2～4	早 川 正 一
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 人類が地球上に出現して以来、知能の発達と共に生活を安定させ充実させるため、さまざまな文化を開発し、展開してきた事実がある。
 発達する人類の知能は、目に見えない精神文化を発達させてきた一方、さしずめ、生存するための有効な手段として「道具」を開発し、それは各々の環境や行動に適合した技術となって発達し、改良されて変化し、時によっては効果を失って棄てられていった。
 この講義の主旨は、物質文化の本質を把握させる総論にあり、下記のような計画のもとにすすめてゆく予定である。

【講義計画】 「物質文化とは何か」を理解させるため、「もの」と総称される有形物の機能や諸相を平易に示す教材を毎時間に用意する。
 テキストとしては、図解の多い英文の教材を主軸にし、適切な実物資料を博物館から借用し、臨時の教材として補充する。

【評価方法】 毎時間、出欠席カードを記入させ、出欠席の状況を成績に反映させる。講義の理解を促すため、適宜に小テストを実施し、期末試験と合わせて総合評価する。欠席過多は不合格とする。

【テキスト】 開講の際に指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22701	文化交流史	選	秋学期	2	2～4	伊 藤 秋 男
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 古墳時代の東アジア

【講義内容】 ヨーロッパから中央アジアを経て東アジアを包括するユーラシア文化史学は、ここ四半世紀のあいだに長足の発展をとげ、江上波夫氏の提唱する騎馬民族征服王朝説を補強するデータに恵まれるようになった。一方で、韓国において日本型の前方後円墳が実在することが確認されるようになった。この講義では、この騎馬民族征服王朝説と前方後円墳の韓国所在論の二つの問題を基軸にすえて、関係資料を比較考古学的に分析することによって、古墳時代の東アジアに展開した文化交流史にスポットをあててみたい。

【講義計画】 個々の知識を修得することは、それほど大切なことではない。できるだけ毎回、プリントやスライドなどの映像を通して、たくさんの考古資料を提供するから、これらの資料を材料にして、受講者の皆さん自らが、主体的に考えていただく時間にしたい。

【評価方法】 筆記試験と出席回数などから総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22706	対照言語学	選	夏期後半	2	2～4	鷲尾 龍一
他の科目との関連	人文学部共通科目「人文学基礎論（言語学入門）」、または、外国語学部共通科目「言語研究の基礎」をすでに履修していること。					他学科履修可

【講義内容】 受動、使役、結果等の構文を、対照言語学の視点から考察する。日本語とアジア、ヨーロッパの諸言語を比較することによって、日本語文法における普遍性と特殊性を具体的に検討し、日本語の言語類型論上の位置付けについても考える。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22711	記号論	選	春学期	2	2～4	大沢 秀介
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 記号がいかにして意味を獲得するのか、また、人は記号をどのように理解するのか、さまざまな現象、とりわけ人間の行為を記号として見たときに見えてくる自然現象や社会現象の意味などを、記号論の見地から考察する。

【講義計画】

1. 記号論入門 記号論の問題意識
2. ソシュールの記号論 1 音韻論、能記と所記、力学モデル
3. ソシュールの記号論 2 パラダイムと体系性
4. ヤーコブソンの記号論 二軸理論の展開
5. パースの記号論 1 記号の定義
6. パースの記号論 2 イコン、インデックス、シンボル
7. パースの記号論 3 カテゴリー論
8. 記号と認識 記号過程としての認識モデル
9. 記号と論理 1 主張と推論を描写する
10. 記号と論理 2 円と文字だけの論理学
11. 記号と論理 3 他の図的論理学との比較
12. 記号と論理 4 コンピュータへの応用

【評価方法】 論述式試験

【テキスト】 プリントを用意する

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22716	意味論	選	夏期後半	2	2～4	TANCREDI Christopher
他の科目との関連	人類文化学科科目「言語と知識(統語論)」、日本語学科科目「日本語学特殊講義 IA (統語論I)」、または、英米科科目「英語学特殊研究5」をすでに履修していること。					他学科履修可

【講義内容】 意味分析概説。語彙の意味、名詞間の照応関係、数量詞の解釈等について詳しく論じる。英語のデータを主に扱うが、分析の方法を日本語にも適用しながら、授業を進めていく。(講義は、英語で行なう。)

【講義計画】 特に、言語理論全体における意味分析の役割について、詳細に論じる。意味分析に最低限必要な論理

学／数学を解説した後、実際に意味分析を行ないながら、意味と文法の関係を探っていく。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 講義の初日に紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22721	自然人類学	選	春学期	2	2～4	渡 邊 毅
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 広く人類文化を修得させるためには、文化や社会の側面の人類学を学ばせる一方で、形態や体質上の人類学を学ぶことも重要である。この講義では、人類の進化に関わる諸問題をテーマに、サルとヒトの両面から自然人類学の立場で講述する。

【講義計画】 1) 日本のサル学
2) サル学からの問題提起
3) 日本の自然人類学
4) 日本列島人の起源論
5) 21世紀の課題

以上の項目で半期間の講義をおこなう。

【評価方法】 授業への参加態度、出席状況、期末テストで統合的に評価する。

【テキスト】 授業中に参考文献の紹介をおこなう。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22726	政治人類学	選	春学期	2	2～4	石 井 眞 夫
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 文化人類学における政治研究は「政治人類学」と呼ばれる。この分野はたんに政治組織や権力構造の研究にとどまらず、社会のなかに不均等に配分される「力」と、その行使に関わる諸問題を幅広く考察する。したがってそこでは、中央集権化した政治組織のみならず、親族・部族・年齢組織などに分散・浸透した権力も問題となる。本講義では、それらの多様な政治組織や政治過程を分析するとともに、政治的力と霊的力の関係についても論じる。

【講義計画】 1) 人類学における政治研究の概要
2) 「力」の概念をめぐる民族誌
3) 伝統社会の政治人類学
4) 西欧世界と文化の変容
5) 植民地と伝統文化
6) 霊力の政治学
7) 伝統文化と現代政治

【評価方法】 試験による

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22731 22736	文化人類学フィールドワークⅠ・Ⅱ	選	春学期 夏期後半 秋学期	各2	2～4	吉 田 竹 也
他の科目との関連	かならず、同一担当者のⅠとⅡを通年で履修すること。					履 修 不可 対象学科 (但し旧人類 学科は可)

【講義内容】

＜文化人類学フィールドワークⅠ＞

文化人類学という学問の特徴は、文献研究の成果を、自身の現地調査での資料とつきあわせて、新たな議論の局面を切り開いていくところにある。授業では、まず文献研究によって実地調査の場所とテーマを絞り込み、テーマに適合した調査方法を学んだのち、全員で短期間の実地調査をおこなう。共同作業で情報の収集と分析をおこなう手法を学ぶことも、この授業の大切な課題である。

＜文化人類学フィールドワークⅡ＞

「文化人類学フィールドワークⅠ」での学習と現地調査の成果をもとに、そこで得た資料をあらためて文献研究とつきあわせ、討論・分析し、共同でレポートや報告書にまとめる過程を体験する。

【講義計画】

文化人類学の調査は、個人もしくは少人数での参与観察とインタビューを比較長期にわたっておこなうことに特徴がある。もっとも長期の調査を授業でおこなうにはさまざまな困難が伴う。そこでこの授業では、少人数のグループ学習のかたちで、まず春学期に学内で事前の学習を各自の発表をもとにおこなったあとに、夏期に約1週間の調査を学外授業としておこなうことにする。なお調査やそれに伴う研究に関わる出費（旅費、滞在費、資料費など）はすべて履修者の個人負担となる。また調査をやり放しで終了するフィールドワークなどありえないので、秋学期の資料整理作業（文化人類学フィールドワークⅡのサブワーク）への参加を義務づける。以上の点を了承し、下記の注意点をよく読んで上で登録すること。なお登録前の事前説明会に参加した者に履修を認める。

本来この授業は、各自が作成した研究計画案を全員で検討し、研究テーマや調査地を選定するところからはじめるのだが、今年度は奄美・沖永良部島の1村落における「字誌」作成の過程に焦点を当てて現地調査をおこないたいと考える。まず「フィールドワークⅠ」では、デスクワークとフィールドワークおよびその後の研究についての計画を立て、全員で分担しながら、調査前に必要な知識や調査の方法について勉強し、結果をレポートとして提出する。

学外授業は、8月末あるいは9月上旬の1週間で予定している。現地集合現地解散とする。もっとも履修者の都合にも配慮するので、正確な日程は後日相談して決める。なお参考までに昨年度の授業の場合について触れると、現地（沖永良部島）での滞在費は約2万円（公民館を間借りし、自炊）、往復の船運賃が約3万円であった。なお、この学外授業の前半部分は「フィールドワークⅠ」の、後半部分は「フィールドワークⅡ」の授業に、それぞれ充当する実習だと考えてほしい。

秋の「フィールドワークⅡ」では、春学期での事前のデスクワークと学外でのフィールドワークの成果とを踏まえつつ、これにあらたな事後的学習を総合したかたちで、各自の発表をおこない、既存の研究にたいして自分たちが何をおこなったのかを評価していく。なおフィールドワークの資料の整理は、グループの作業として授業の外でおこなうことにする予定である。そして一定の段階で研究成果をとりまとめる。

【評価方法】

上記の一連の作業に対する取り組み方とレポートを総合的に判断して、ⅠとⅡそれぞれの評価を出す。調査に当たっては、インタビューの際のエチケットや人との接し方、団体行動での振る舞いなどが、机上の勉強よりも重要であり、この点も評価の対象とする。

【そ の 他】

＜注意点＞

・授業の性格上、多人数に履修を認めることは不可能である。履修希望者が適正数をこえる場合は、事前説明会での熱意、面接やレポートなどを基準として、履修者を絞り込む作業をおこなう可能性がある。あらかじめこの点は覚悟しておいてほしい。

・履修を希望する者は、①授業担当教員による事前説明会に出席し、②その際に指定された方法で予備の登録をしておくこと。また③指定された期日までに、フィールドワークのテーマや事前と事後のデスクワークの見通しなどに触れた研究計画案を作成し、指定の方法で担当教員に提出すること。これらの要件を満たさなかった者には履修を認めない。

・この授業の趣旨は、デスクワークとフィールドワークの往復作業を、最初のステップから共同で体験することにある。通常の授業以上に履修者の負担は大きいし（多大の宿題や予習は覚悟すること）、集団行動ゆえの困難も予想される。中途半端な気持ちで履修した者が、授業の円滑な進行を妨害する恐れもある。物見遊山の参加者や、目的意識の不明確な者、共同作業の苦手な者は登録しないほしい。逆に時間と労力を惜しまず主体的に取り組む者、授業が終わった後にも任意でさらに継続的な作業に取り組もうとする者を歓迎する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22732 22737	文化人類学フィールドワークⅠ・Ⅱ	選	春学期 夏期前半 秋学期	各2	2～4	石原 美奈子
他の科目 との関連	かならず、同一担当者のⅠとⅡを通年で履修すること。					履修不可 (但し旧人類 対象学科 学科は可)

【講義内容】

文化人類学フィールドワークⅠ

文化人類学という学問の特徴は、文献研究の成果を自身の現地調査による資料とつぎあわせ、新たな議論の局面を切り開いていくところにある。授業では、まず文献研究によって実地調査の場所とテーマを絞り込み、テーマに適合した調査方法を学んだのち、全員で短期間の実地調査を行う。共同作業で情報の収集と分析をおこなう手法を学ぶことも、この授業の大切な課題である。

文化人類学フィールドワークⅡ

文化人類学フィールドワークⅠでの学習と実地調査の成果をもとに、そこで得た資料と文献研究とをつぎあわせ、討論・分析を経て、共同で当初のテーマに沿ったレポートにまとめる過程を体験する。

【講義計画】

文化人類学においてフィールドワークは、ある特定の地域に一定期間住み込み、住民へのインタビューを行うと同時に調査者自身も住民の様々な活動に参加しながら観察を行うという作業形態をとる。また、フィールドワークは、事前に関連情報を収集し、事後にはその結果を報告書にまとめるという作業も伴う。本授業では、文化人類学では欠かすことのできないフィールドワークという作業を実施するための方法論を学ぶと共に、履修者に実際にフィールドワークとそれに伴う様々な作業を体験してもらう。

フィールドワークⅠ（春学期）では、まずフィールドワークを行うための準備として、地域選定、文献資料の収集及び調査計画の執筆を行う。フィールドワークを行う地域に関しては、国内である限りとくに制限を設けないが、フィールドワークは合同で分担作業によって行うものとし、地域は、各自関心のあるテーマ、費用、日程、現地の事情等を十分に考慮に入れた上で、話し合いにより選定するものとする。調査にかかる費用は基本的に履修者の個人負担とし（参考までに、昨年度の授業では、愛知県北設楽郡富山村でフィールドワークを実施したが、1週間の滞在でかかった経費は1人あたり2～3万円であった）、現地調査の日程は夏期休暇中1週間程度とする。調査地域が決まったら、関連する文献資料を収集する作業を分担して行い、各自調査計画を立て発表してもらう。

フィールドワークⅡ（秋学期）では、フィールドワークⅠで集めた文献資料と夏期休暇中に行った現地調査で得られた資料や情報をつぎ合わせ整理・分析した上で、最終的にレポートの形にまとめる。

なお、フィールドワークのノウハウに関する知識がない場合でも履修可能であるが、そのような学生が多数を占める場合には、フィールドワークⅠで、地域選定等の事前準備と並行してフィールドワークに関する概説書を読むことにする。また、フィールドワークⅠとⅡは、事前準備・現地調査・レポート作成の作業が連関しているため、同一担当教員のものを必ず通年で履修するものとする。

【評価方法】

フィールドワークⅠ（春学期）は、各自作成する調査計画、フィールドワークⅡ（秋学期）は、各自作成するレポートを評価対象とする。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22741	考古学フィールドワークⅠ	選	春学期	2	2～4	重松 和男
他の科目 との関連	「人文学基礎論（考古学入門）」または「考古学A」「考古学B」をすでに履修していること。					他学科 履修不可

【講義内容】

考古学において「遺跡」の調査は「もの」自体の研究とともに、二大特色である。考古学フィールドワークⅠはその調査のトレーニングとして、まず測量・実測・写真・層序の理解・調査日誌記入法など発掘方法についての基本を習得し、その後、実際の調査現場での体験的実習を行うことが望ましいが、今年度はシミュレーション的に行う。

【評価方法】

試験結果に出席を加算する。

【そ の 他】

実習型式の授業のため、欠席に対しては厳しい。また遅刻は原則として許さない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22746	考古学フィールドワークⅡ	選	秋学期	2	2～4	重 松 和 男
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 考古学フィールドワークⅡでは、考古学フィールドワークⅠの実地調査の結果を報告にまとめる過程を実践させる。遺物の水洗・注記・台帳作成から実測・写真撮影、分類・整理後の図版作成、現場での各種図面の整理・図版化、成果の文章化が主要な項目となる。

【評価方法】 試験結果に出席を加算する。

【そ の 他】 実習型式の授業のため、欠席に対しては厳しい。また遅刻は原則として許さない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22751	人類文化学特殊講義（構造と進化）	選	秋学期	2	2～4	江 本 純
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 形態学は相同という概念をその基盤として成立する学問である。相同概念そのものは形態の構造や機能の類似性から議論されてきたが、生物の進化を土台とする中で、相同概念と形態の個体発生ならびに系統発生上の起源の問題が同時に論じられるようになり、形態学そのものが新しい局面を迎えつつある。この講義では、構造とは何か、機能はどのように成立するのかといった形態学の基本問題を、昆虫の多様な形態を通じて論じる。

【講義計画】 形態学は生物の形を単に記述する学問ではありません。形態学のもっとも重要な点は、形態の構造を明らかにし、その構造の成り立ち・由来を探求することにあります。講義は、私たち人間が『形』をつくっていくプロセスと、生物が遺伝子DNAの設計図に従って『体』をつくっていくプロセスにどのような違いがあるのかを明らかにしながら、生物の『かたちづくり』を学ぶことから始めます。
生物の『かたちづくり』は細胞分裂を手段にし、どこに何をつくるのかという全体と部分の位置関係を見事に実現している。しかし、さらによく観察すると、同じような『形』が並んでいることに気づきます。生物の体はたいへん複雑にできていると思いがちですが、実は意外に単純な構造の繰り返しであることが多いのも事実です。このことに最初に気づいたのはかの有名な文豪ゲーテでした。しかし、近代生物学は生物の形を自然選択により進化してきたものと考えてきました。確かに生物の形は進化してきたのですが、形態がどのような規律性をもって進化するのか、その全貌はまだまだ明らかにされていません。わたしたちは自然・生物（すべての事物といってもいいのですが）を体系的に理解しようとし、分類学（体系学：systematics）はその体系化のための学問です。

1. 私たち人間は『かたち』をどのように作るのだろうか。
ある形をつくるプロセスを詳細に記述し、私たちの『かたちづくり』の計画性がどのようなものかを調べます。
2. 生物の体の『つくり』の特徴を調べる。
生物の『かたちづくり』と私たち人間の『かたちづくり』の計画性にはどのような違いがあるのでしょうか。
3. 生物の形の問題、類似と相同を勉強します。
4. 生物が遺伝子DNAという設計図をもとに、どのように『かたち』を作っていくのかを見てみます。
最近では『かたちづくり』の遺伝子がかかなりたくさんわかってきました。意外なことにハエなどの昆虫から、私たち人間の体をつくる遺伝子は同じものであるということです。生物の『かたちづくり』は昆虫からヒトまで共通した基本設計図をもとに行われ、同じ遺伝子でハエではハエの頭、ヒトではヒトの頭をつくるのです。
5. 生物の『かたちづくり』の特徴を学んだ後、私たちは生物の『形』をこれまでどのように理解してきたかを、ゲーテの形態学から学んでみましょう。
6. 近代生物学のダーウィニズムでは『かたちづくり』をどのように理解するのでしょうか。ダーウィンの著書『種の起源』の一節を精読します。
7. 生物の『かたち』にひそむ歴史性を考えてみましょう。『かたち』にはその生物がたどってきた道筋が刻まれています。
8. 私たちが何かを認識するとき、必ず観察・分類を行っています。その過程で私たちは何を認識しよ

うとしているのでしょうか。分類学はただ単に形の異なるものを順番に並べているものではありません。分類学 (systematics) はまさに体系学です。この講義の最後に体系学とはどんな学問か、そしてどのような発想で体系が作られているのかを見的过程中で、自然をどのように理解していくのかを学びます。

【評価方法】 講義はゼミ形式で行います。そのため参加者はディスカッションのためのレポートを準備・提出しなければなりません。評価はレポートの内容とディスカッションへの積極的な参加を基礎に行います。筆記試験は行いません。

【テキスト】 生物学教室で準備する資料のほかに、参考文献を紹介します。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22756	人類文化学特殊講義 (統語分析)	選	春学期	2	2～4	斎 藤 衛
他の科目との関連	人類文化学科科目「言語と知識(統語論)」、日本語学科科目「日本語学特殊講義IA(統語論I)」、または、英米科科目「英語学特殊研究5」をすでに履修していること。					他学科履修可

【講義内容】 文法論における主要な論文をとりあげ、議論する。特に、句構造と文法格、移動現象、計量詞解釈に焦点をあて、1970年代、1980年代に提案された分析、仮説を検討する。

【講義計画】 句構造、文法格、移動、削除等の主な文法現象を概観し、詳細な日英語比較を行なう。日本語と英語の根本的な共通性をふまえた上で、日本語の特殊性を明らかにし、どのような形で、日本語研究が、文法の一般理論の発展に貢献しうるかを具体的に検討する。講義を中心に授業を進めるが、受講者がそれぞれ研究テーマを見つけ、主体的に授業に関わることが期待される。

【評価方法】 試験

【テキスト】 授業中に指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22761	人類文化学特殊講義 (指示の問題)	選	秋学期	2	2～4	青 柳 宏
他の科目との関連	「人文学基礎論 (言語学入門)」、「言語論」、「言語と知識」などの科目で、生成文法の統語論の基礎を既修のこと。					他学科履修可

【副 題】 自然言語における照応関係

【講義内容】 指示 (reference) の問題は哲学と言語学の両分野でそれぞれ独自に研究されてきたが、近年その間の溝は埋まりつつある。本講義では主に言語学的観点から、照応関係 (anaphoric relations) を取り扱い、主として日本語、英語のさまざまな現象を考察する。

【講義計画】 本年度はつぎのようなトピックを論ずる予定である。

- (1) 同一指示 (coreference) と代名詞 (pronouns)
Pronoun は noun の代わりといえるのか？
- (2) 束縛照応 (bound anaphora) と照応形 (anaphors)
“Every student hates his professor” — every はなぜ単数で受けるのか？
- (3) 統御 (control) とゼロ代名詞 (zero pronouns)
「君、ごはん食べた？」「うん、食べた」 — 日本語は「穴」だらけ？

【評価方法】 出席、授業中に与えられる課題、期末試験の結果を総合的に加味して評価する。

【テキスト】 適宜プリントを配付する予定。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22766	人類文化学特殊講義（文化と象徴）	選	春学期	2	2～4	吉 田 竹 也
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 現代の文化人類学は、「文化」を意味象徴的構成体として捉える認識を、その理論的基盤のひとつにしている。講義では、この文化をめぐる基本的認識について説明した後に、文化人類学における主要な文化理論・世界観研究・意味象徴分析を順次取り上げ、その議論の内容や民族誌データとの関連について検討していく、意味論研究の可能性や現状での課題について考察する。

【講義計画】

- 1) 序論
- 2) 文化の誕生／文化の系譜学
- 3) 文化の理論的定式化
- 4) 広義の文化・狭義の文化
- 5) 文化の意味論
- 6) 構造主義
- 7) 儀礼の構造と意味論
- 8) 認識人類学
- 9) 解釈人類学
- 10) 構築主義と構造主義
- 11) 文化構築主義と伝統の創出論
- 12) 結論

【評価方法】 出欠状況、受講態度、レポート、期末試験などを総合的に判断して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
22771	人類文化学特殊講義（親族論）	選	秋学期	2	2～4	石 井 眞 夫
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 家族・親族の組織は人類の繁殖のためのシステムである。しかし人類の家族・親族組織は単なる生物学的な繁殖体系以上のさまざまな慣行や観念をもっている。人々のもつ生命観やさまざまな親族慣行は、人類社会の親族組織がもつ重要な一面である。この講義はこのような視点から、人類社会の家族・親族組織を形式的な点のみからではなく、その内側から見ていこうとする。

【講義計画】

- 1) 自然の中の親族（繁殖システムとしての親族）
- 2) インセスト・タブー（近親相姦の禁忌）をめぐって
- 3) 近親と遠縁—人間の親族関係
- 4) 親族名称と親族集団の構成
- 5) 出自と親族集団
- 6) 社会組織としての家族
- 7) 親族慣行の不思議な世界

【評価方法】 試験による

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22776	人類文化学特殊講義（縄紋文化論）	選	秋学期	2	2～4	大塚 達朗
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 縄紋文化の多文化的再編制

【講義内容】 縄紋文化は、日本列島内で独特・固有な変遷を示す縄紋土器を育んだ文化という理解に加えて、農耕に依存しないが高度な定住性を示す狩猟民による特異な文化と理解されるようになった。列島外の諸先史文化とは没交渉で列島内に高度で特異な内容の単一・等質な新石器文化であることが強調されてきた。はたして、縄紋文化は単一で固有な文化といいきれぬのか、むしろ複雑な由来の多文化的複合の可能性のあることを講義する。

【講義計画】 下記のテーマにそって講義を進める。
 1. 土器を使用する狩猟採集民が日本列島に登場する様子
 2. 九州と朝鮮半島との交流を示す土器文化
 3. 北海道の知られざる土器文化
 4. 亀ヶ岡式土器が広域に波及する背景
 5. 縄原式紋様から見た地域連合の形成
 6. 由来が多様な縄紋土器から見た日本列島先史文化の再構築

【評価方法】 期間中の小レポートと期末試験で成績を評価する。なお、出欠はきびしく取り、成績に反映させる。

【テキスト】 参考資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22781	人類文化学特殊講義（古墳文化論）	選	春学期	2	2～4	伊藤 秋男
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 東アジアのなかの日本古墳文化

【講義内容】 日本の古墳時代は、日本が東アジアの政治世界にはじめて公的な外交関係をもとうとした時代である。これに直接関与したか、もしくはその実行を支援したと思われる各地の有力者の古墳を取り上げ、日本の古墳社会が当時の東アジアに果たした政治的・文化的役割について論じる。

【講義計画】 個々の知識を修得することは、それほど大切なことではない。できるだけ毎回、プリントやスライドなどの映像を通して、たくさんの考古資料を提供するから、これらの資料を材料にして、受講者の皆さん自らが、主体的に考えていただく時間にしたい。

【評価方法】 筆記試験と出席回数などから総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
22786	人類文化学特殊講義 （「中国」的世界の形成）	選	秋学期	2	2～4	西江 清高
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 中国初期王朝の考古学

【講義内容】 「中国」的世界の形成を方向づけたのは、黄河中流域における初期王朝（「夏」・殷・周王朝）の出現であった。では、初期王朝の出現とは如何なる歴史のプロセスであったのか。しばしば国家の出現と同義に論じられてきたこの問題について、本講義では、考古学的な事実を一つ一つ積み上げることで考察していく。まずはじめに、新石器時代に発達した地域的社會と、初期王朝時代に生まれた新しい社會との質的な違いを明らかにし、つづいて、黄河中流域において地域集團が統合される過程を具体的に跡づけてみたい。「中国」的世界の原点について考えることで、人類史的な問題の一つに近づくことが本講義の目標である。

【講義計画】

- I 食糧生産社會の成立
- II 新石器時代末の地域的社會
- III 「中原」における初期王朝の出現
- IV 「中原」とは何か
- V 初期王朝の社會と文化
- VI 「中国」的世界について

【評価方法】 学期末に試験を実施する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。参考文献：小澤正人・谷豊信・西江清高著『中国の考古学』同成社、1999。甲元眞之『中国新石器時代の生業と文化』中国書店、2001。